

2013年度（2014年3月期）

## 決算説明会



株式会社エージーピー

日本証券アナリスト協会  
第1セミナールーム

2014年5月27日

# 2013年度業績報告

2014年度の業績見通し

次期中期計画策定の骨子

## Executive Summary

---

- 2013年度業績は対前年・対計画とも上回り、過去最高の営業利益。地方空港の撤退と人的生産性の向上、フードカート販売増等、諸施策の効果が出た結果。
- 羽田国際化対応、植物工場投資等、企業価値向上に向けた投資を着実に実施。
- 会計基準変更の影響はあるものの、自己資本比率は49%と健全な財務体質を維持。
- 今期は安定配当(9円)を継続するとともに、2014年度を更なる成長に向けた準備期間と位置づけ、競争力強化施策を推進。

# 2013年度収支状況

2013年度は、対前年、対計画とも増収増益を達成。

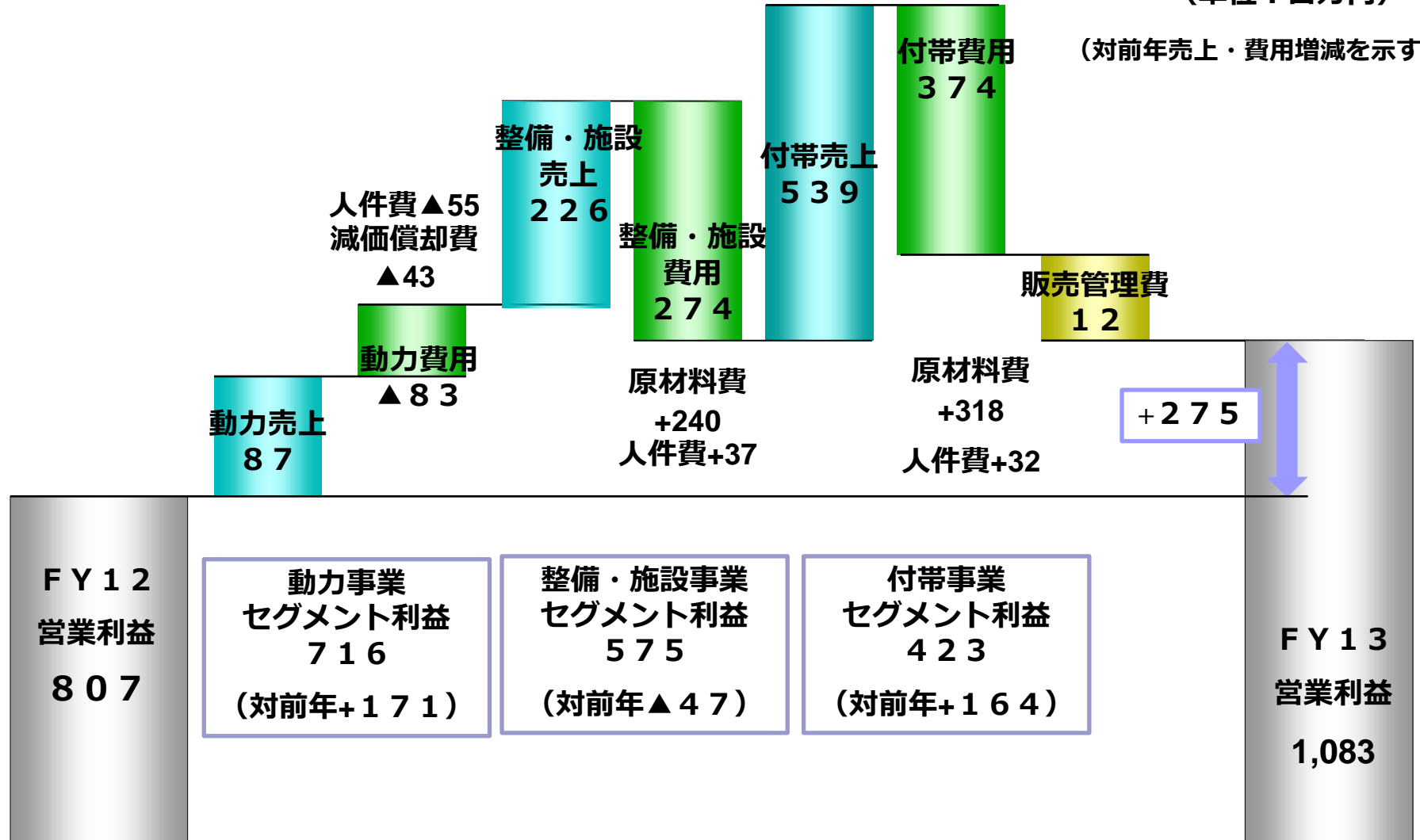
(単位：百万円)

|                 | ①FY12<br>実績  | ②FY13<br>計画  | ③FY13<br>実績   | 対前年<br>③-① | 対計画<br>③-② | 備考<br>(対前年)  |
|-----------------|--------------|--------------|---------------|------------|------------|--------------|
| 売上高             | 10,462       | 10,727       | 11,315        | 853        | 588        |              |
| (動力事業)          | 4,904        | 4,997        | 4,991         | 87         | △6         |              |
| (整備・施設事業)       | 4,329        | 4,225        | 4,556         | 227        | 301        |              |
| (付帯事業)          | 1,228        | 1,473        | 1,767         | 539        | 293        | フードカート事業+443 |
| 営業費用            | 9,654        | 9,938        | 10,232        | 577        | 294        |              |
| 営業利益<br>(営業利益率) | 807<br>7.7%  | 788<br>7.4%  | 1,083<br>9.6% | 275        | 294        |              |
| 営業外収支<br>(支払利息) | △48<br>(△47) | △21<br>(△33) | △5<br>(△35)   | 42<br>(12) | 15<br>(3)  | 有価証券売却益+24   |
| 経常利益            | 758          | 767          | 1,077         | 318        | 310        |              |
| 当期純利益           | 339          | 409          | 570           | 230        | 161        |              |

# 2013年度収支状況

(単位：百万円)

(対前年売上・費用増減を示す)



## 2013年度末の財務状況

羽田国際線再拡張に伴う設備投資等を着実に実施した結果、総資産が対前年で10.3%増加しているが、引き続き健全な財務体質を堅持。

| (単位：百万円)   | 前期末<br>(2013/3/31) | 当期末<br>(2014/3/31) | 前年差    |
|------------|--------------------|--------------------|--------|
| 総資産        | 11,623             | 12,820             | 1,196  |
| 純資産        | 5,992              | 6,293              | 301    |
| 有利子負債      | 2,524              | 2,193              | △331   |
| 自己資本比率 (%) | 51.6%              | 49.1%              | △2.5pt |
| ROE (%)    | 5.8%               | 9.3%               | 3.5pt  |
| 設備投資額      | 463                | 1,485              | 1,022  |
| 減価償却費      | 817                | 770                | △46    |
| EBITDAマージン | 15.5%              | 16.4%              | 0.9pt  |
| グループ人員(人)  | 617                | 604                | △13    |

(単位：百万円)

(特記)

【自己資本比率】

「退職給付会計新基準による未認識債務即時認識の影響を除く自己資本比率50.6%」

【設備投資】

HND国際線再拡張  
809百万

植物工場事業投資  
91百万

2013年度業績報告

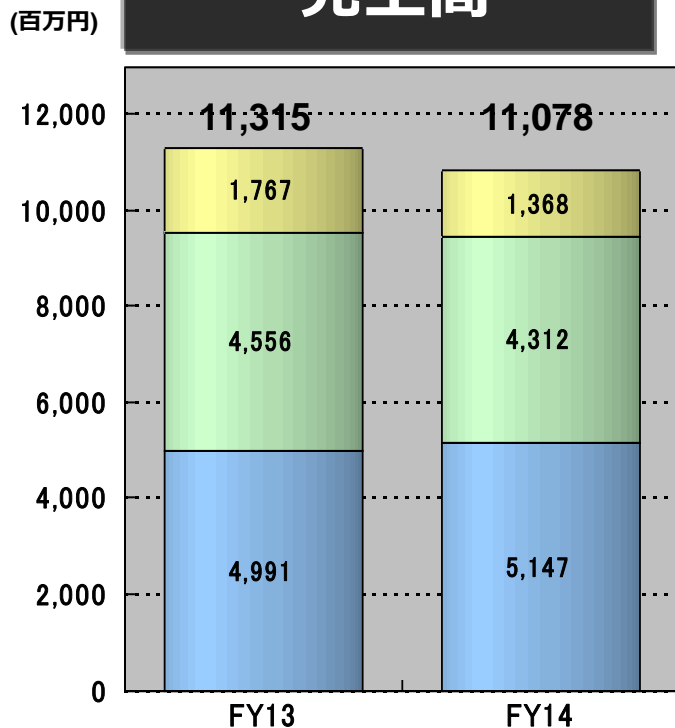
2014年度の業績見通し

次期中期計画策定の骨子

# 2014年度業績見通し

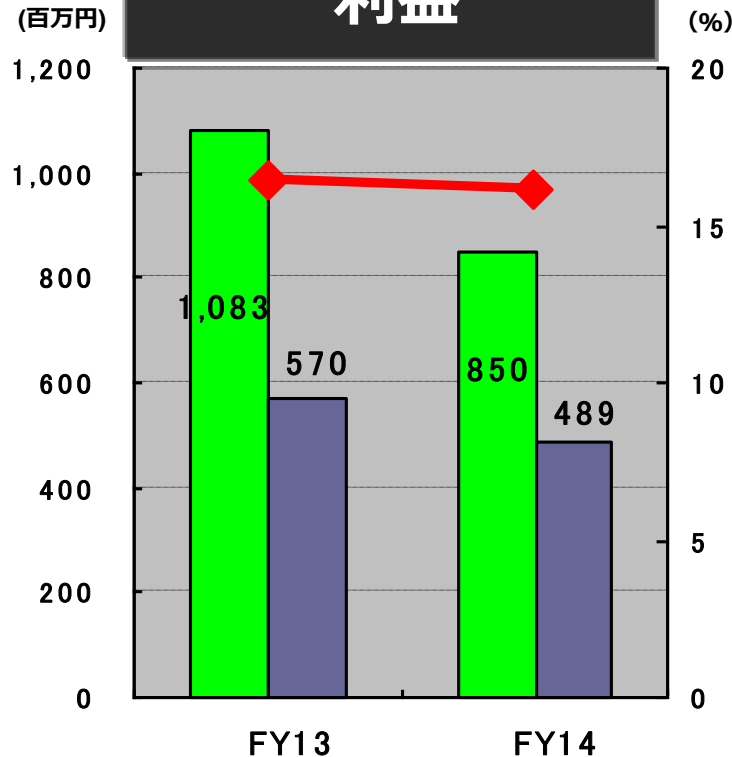
2014年度を将来に向けた更なる飛躍を実現するための準備期間と位置付け、成長戦略となる次期中期計画を策定中。

## 売上高



■ 動力事業 ■ 整備事業 ■ 付帯事業

## 利益



■ 営業利益  
■ 当期純利益  
◆ EBITDAマージン

### (特記)

フードカートの消費税率引き上げに伴う反動減

営業利益は減少しているが、償却額を考慮したEBITDAマージン率はほぼ、横ばい

「退職給付会計新基準による退職給付費用への影響は軽微」



2013年度業績報告

2014年度の業績見通し

次期中期計画策定の骨子

## Executive Summary

---

- 創立50周年を控え、現在、東京オリンピックが開催される2020年および10年後の2025年をイメージして、成長戦略となる長期ビジョン、次期中期計画を策定中。
- 既存事業の収益基盤強化に努める一方、当社の強みを活かした成長戦略事業の展開・育成を通じて、企業価値の拡大を目指す。
- 中長期的な目標として、売上高190億円程度、営業利益率10%、ROE10%の達成を目指す。
- 事業規模拡大をする中でも、自己資本比率は50%程度を堅持。

# 社会・経済環境の変遷と当社の歴史

| 年代        | 1960年代            | 1970~'90年代                 | 2000年代               | 現在                 |
|-----------|-------------------|----------------------------|----------------------|--------------------|
| 【社会・経済環境】 | 高度成長期             | 高度成長の終焉                    | グローバル化の進展            | 失われた20年からの回復       |
|           | 航空業界の急成長          | バブル経済と崩壊                   | 航空会社の経営難             | 規制改革の進展            |
| 【当社の歴史】   | 創業<br>(1965年)     |                            | 株式上場<br>(2001年)      | 創立50周年<br>(2015年)  |
|           | 空港インフラ事業の<br>基盤整備 | 空港整備計画に伴う<br>投資負担増         |                      | 既存事業の収益構造<br>改革    |
|           | 経済成長とともに<br>着実に成長 | 3プロによる急成長<br>(NRT・HND・KIX) | 新事業(フードカート<br>事業)の展開 | 新事業の成長・更<br>なる展開模索 |
| 【連結売上高】   | ~2億円              | ~90億円                      | ~100億円<br>(2005年度)   | ~110億円             |

**社会・経済環境の変化を踏まえた新たな目標を設定する必要性**

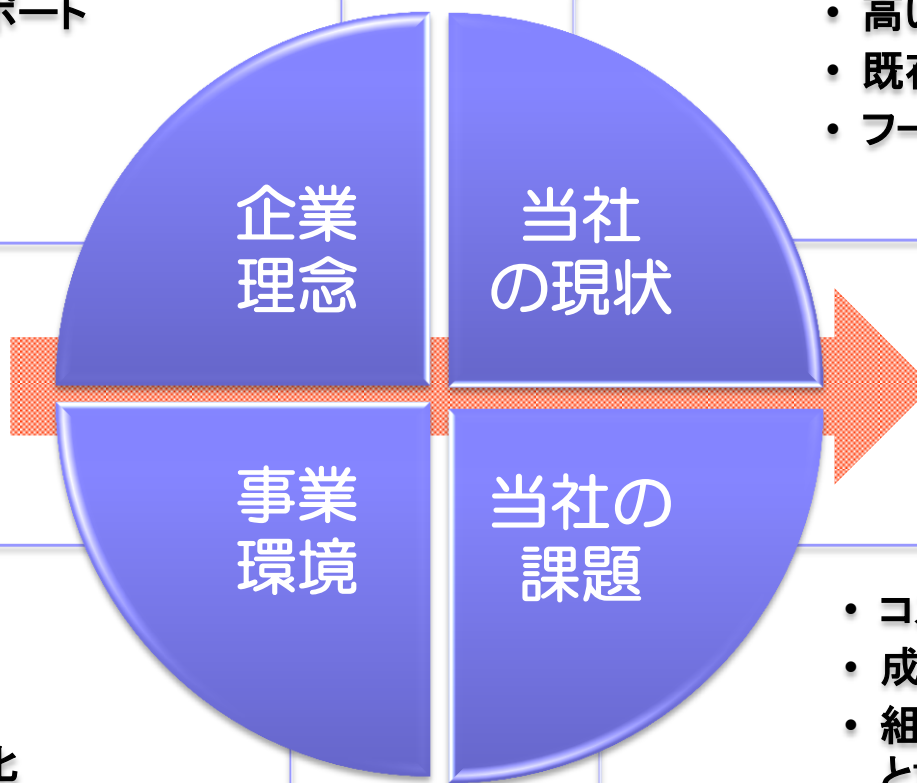
# 長期ビジョン策定における基本認識

さらなる成長のため、創立50周年を契機として、新たな目標(長期ビジョン)を設定し、長期ビジョンに基づく中期計画を策定予定。

- 地球環境(エコエアポート等)への貢献
- 社会からの信頼

- 高い技術力
- 既存事業の頭打ち
- フードカート事業の成長

**新たな目標  
(長期ビジョン)  
の設定**



**長期ビジョンに  
基づく中期計画を  
今秋策定**

- 航空業界の厳しい競争と値下げ圧力
- 空港運営主体の変化

- コスト競争力の強化
- 成長事業の育成
- 組織運営体制の見直しと意識改革

# 収支計画の骨子

## 事業別売上高イメージ

(単位：百万円)

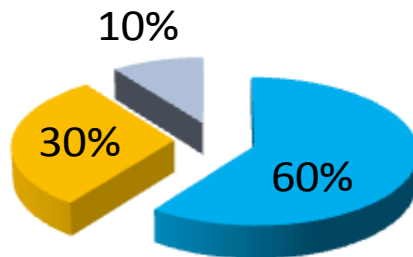
|               | FY13<br>実績 | FY14<br>見込 | FY20<br>目標 | FY25<br>目標 | 年平均<br>成長率 |
|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 動力事業          | 4,991      | 5,147      | 5,900      | 6,600      | 2.3%       |
| 整備・施設<br>事業   | 4,405      | 4,448      | 5,200      | 5,600      | 2.4%       |
| その他<br>(付帯事業) | 1,674      | 1,482      | 3,900      | 6,800      | 15.7%      |
| 売上合計          | 11,315     | 11,078     | 15,000     | 19,000     | 5.0%       |

## 【方向性】

企業価値拡大を図るため、既存事業（動力事業、整備・施設事業）の収益性向上を図りつつ、成長戦略に基づく事業展開を推進し、長期的には売上高190億規模を目指すとともに、航空会社以外への売上も拡大し、ボラティリティの高い業界への依存度低減を図る。

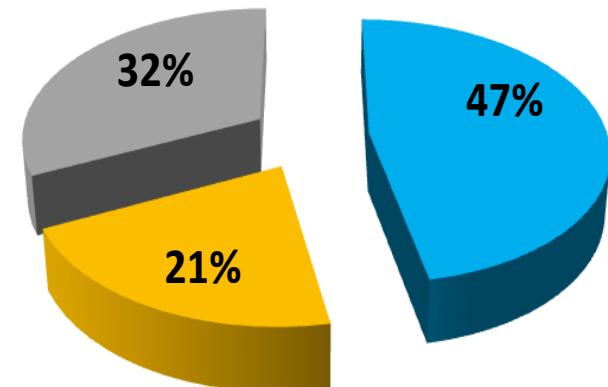
## 顧客別売上割合イメージ

### 【FY13実績】

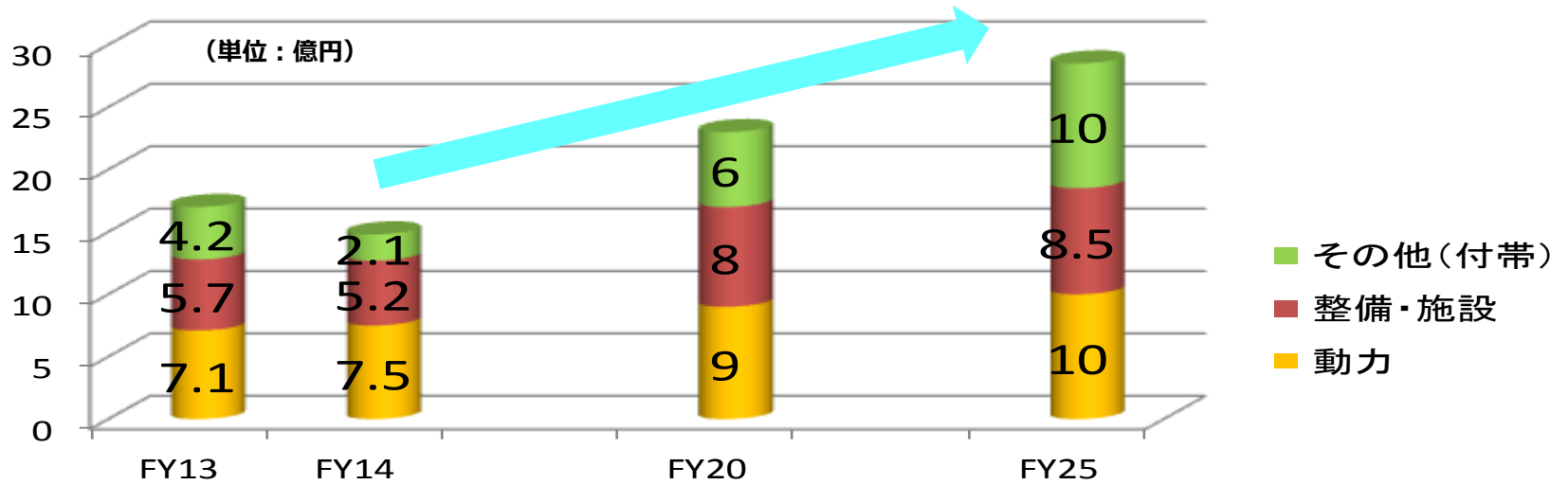


- 航空会社
- 空港会社
- 航空・空港以外

### 【FY25 イメージ】

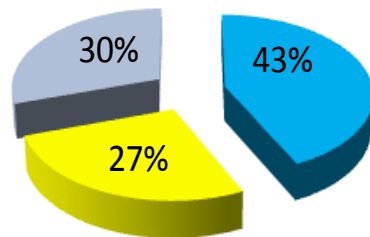


## 事業別セグメント利益目標イメージ



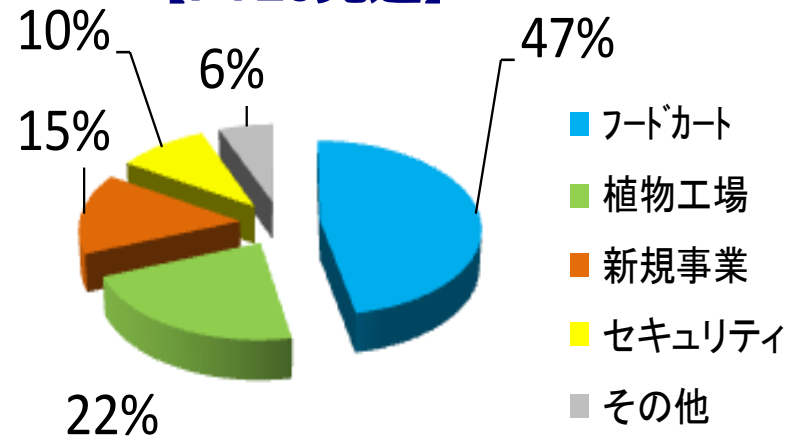
## その他事業の内訳

【FY13実績】



■ フードカート ■ セキュリティ ■ その他

【FY25見込】



# 資金計画の骨子

## 設備投資

営業CFは設備投資に充当

- ・ 既存事業の効率化投資等により安定的収益基盤を充実しつつ、成長戦略投資を実施
- ・ 「投資規模 ≤ 営業CF」を原則

## 自己資本

自己資本比率50%程度を維持

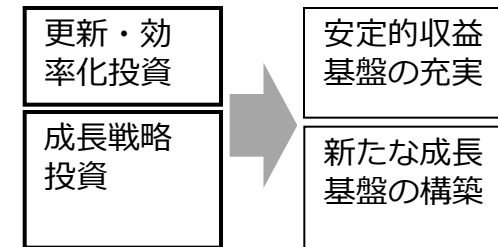
- ・ 当面は、手元資金を有効活用し、負債を圧縮
- ・ 成長戦略投資では、自己資本比率50%程度を維持した上で、臨機応変に借入金を活用

## 配当政策

配当性向20%を目安に安定配当

- ・ ROE10%を目指すとともに、安定配当を実施
- ・ 事業拡大を通じた、企業価値の向上施策を推進

## 【投資計画イメージ】



## 【FY13末B/S】

|                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 現預金<br>+有価証券<br>(31億円) ↑ | 負債(65億円)          |
| 流動資産<br>(61億円)           | 長期借入金<br>(19億円) ↑ |
| 固定資産<br>(67億円)           | 自己資本<br>(62億円)    |

手元資金の圧縮

借入金の有効活用

# 収支構造改革施策の骨子

成長基盤を支える収支構造とリスク耐性の強い事業基盤の確立

## 収支構造改革施策

### 考え方

- ・ 既存事業の競争力強化・コスト効率化
- ・ 新規事業の拡大

### 諸施策

- ・ 事業ポートフォリオの見直し
- ・ 人的生産性の向上
- ・ 調達プロジェクト推進

## リスクマネジメント施策

### 考え方

- ・ 既存事業の利益率向上
- ・ 新規事業リスクの適切な抑制

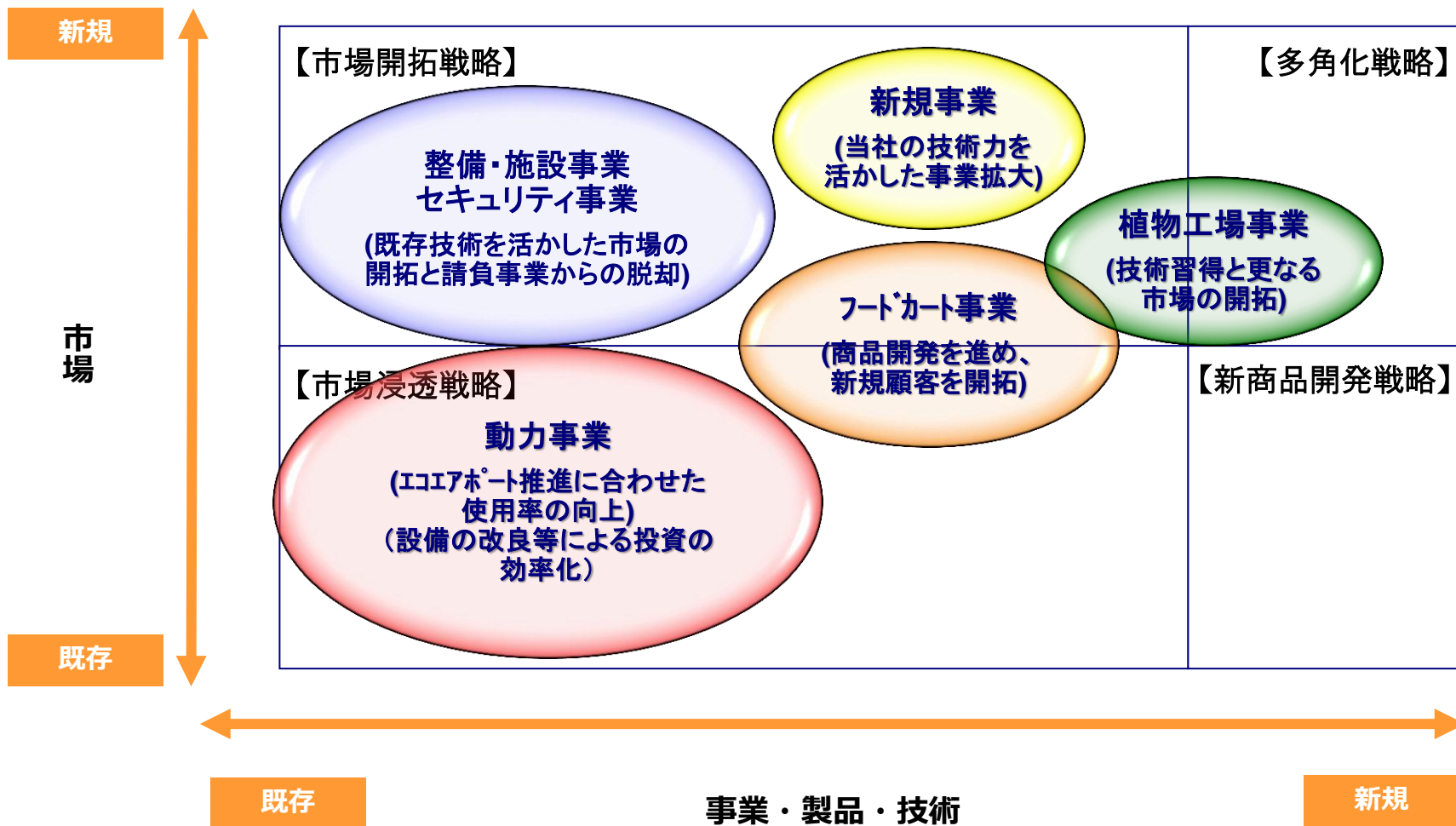
### 諸施策

- ・ 技術力等、「強み」を生かした事業展開
- ・ 他社資源活用、フランチャイズ活用

技術力の向上と人的投資を着実に行いつつ、効率性を追求。  
次期中期にて調達方法の見直しをはじめ、費用削減を徹底。



# 事業戦略マトリクス



# 既存事業の中期計画骨子

収益性向上を最優先課題として、事業基盤の強化と効率化を推進

## 動力事業

## 整備・施設事業 セキュリティ事業

### 現状認識

- 売上の45%を占める主力事業
- エコエアポート(CO2排出抑制)への貢献

### 現状認識

- 顧客事由による空港内事業基盤の縮小
- 空港外ビジネスでの厳しい競争環境

### 取り巻く環境

- 国内航空需要の頭打ち、国際枠の拡大
- 首都圏空港の拡大
- LCCの増加

### 取り巻く環境

- 空港運営主体の変化
- 顧客からの値下げ圧力

### 取り組むべき諸課題

- 設備投資、原材料費の抑制
- 当社設備利用率の向上

### 取り組むべき諸課題

- 高い技術力を活かしたビジネスモデル転換と待ち受け体質からの脱却
- コスト競争力強化による利益率改善

# 成長戦略事業の中期計画骨子

当社技術力を活かせる成長分野に、他社提携等により事業リスクを低減しつつ積極的に展開

## フードカート事業

## 植物工場事業

2014年7月工場稼働

### 現状認識

- ・給食市場での認知度向上
- ・旺盛なリピート需要の取り込み

### 現状認識

- ・当社技術力の新規事業への転用
- ・フランチャイズ方式によるリスク低減

### 取り巻く環境

- ・高齢化に伴う福祉施設への需要増
- ・競合他社参入の急増

### 取り巻く環境

- ・成長市場としての医療事業分野
- ・他社参入による競争激化

### 取り組むべき諸課題

- ・潜在顧客の取込と販路の拡大
- ・維持保守等アフターケアでの収入増

### 取り組むべき諸課題

- ・フロントランナーとしてのノウハウ蓄積
- ・早期安定稼働と販路の拡大

地球環境の保持、航空運送の利便性向上、安全・安心な社会の実現を通じて、高付加価値を提供し、社会に貢献する事業を更に開拓

- 本日は、弊社決算説明会にご参加いただきましてありがとうございます。
- 本日配布しました資料に記載されている将来の業績予想は、経営環境の変化などに伴い予想あるいは目標対比が変化し得ることにご留意ください。

## お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 総務・IRグループ

電話:03-3747-1631

FAX:03-3747-0707

URL:<http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)

